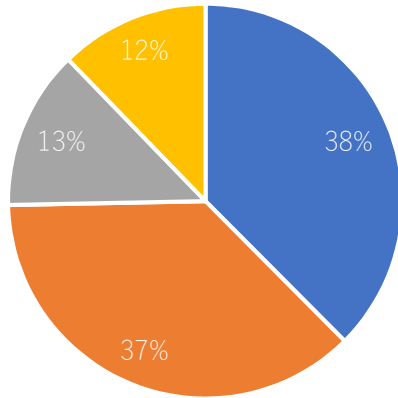


2018年度現代法学部卒業時アンケート  
 調査対象:2018年度3月卒業生 235名  
 調査実施日:2019年3月23日(学位記授与時に実施)  
 回答数:235件  
 回答率:100.0%

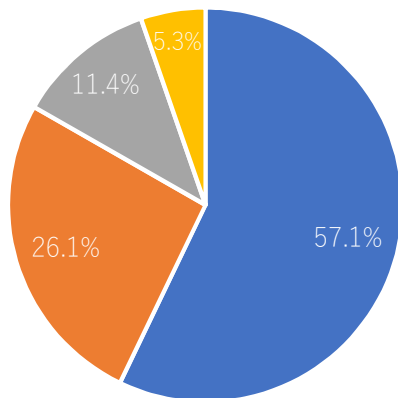
【集計結果】

◆ 東京経済大学は希望していた大学でしたか？



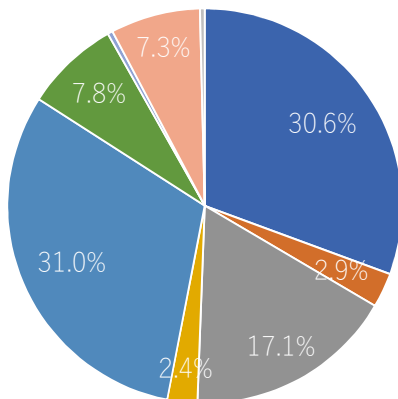
- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

◆ 現代法学部は希望していた学部でしたか？



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

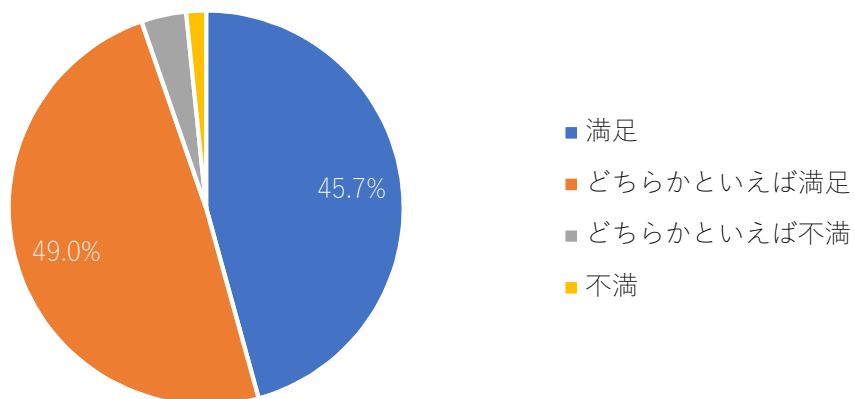
◆ あなたが入学を決めた際の入試種別を教えてください。



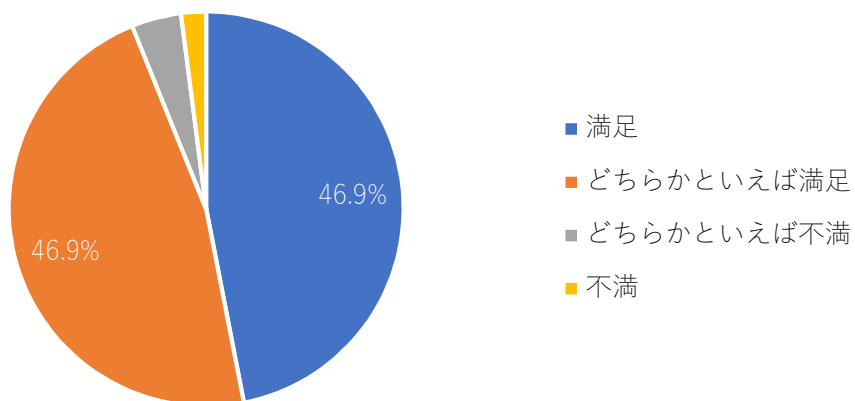
- 一般入試（前期）
- 一般入試（後期）
- センター利用入試（後期）
- センター利用入試（前期）
- 指定校推薦入試
- 自己推薦入試
- 資格取得者入試
- スポーツ実績者・スポーツ特別入試
- 3年次編入学入試

◆ 入学後の総合的な満足度をお答えください。

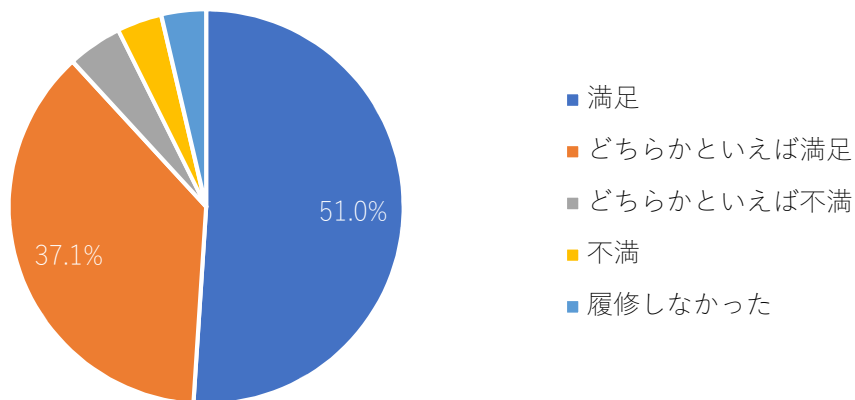
①学部の専門分野 [法律、政治・行政] に係る教育



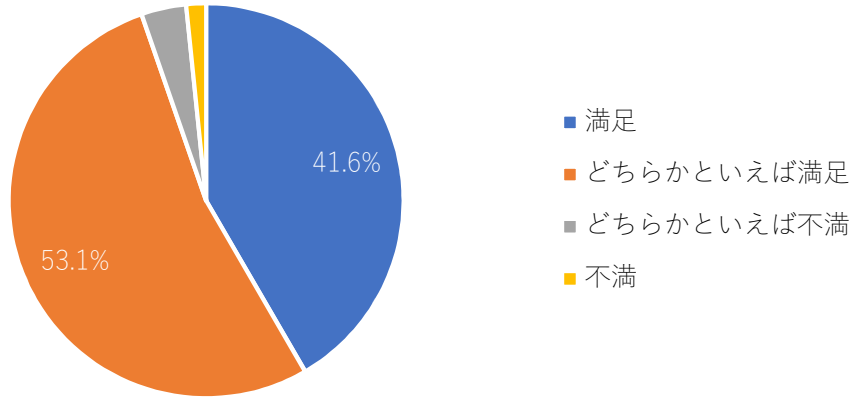
②総合教育科目に係る教育



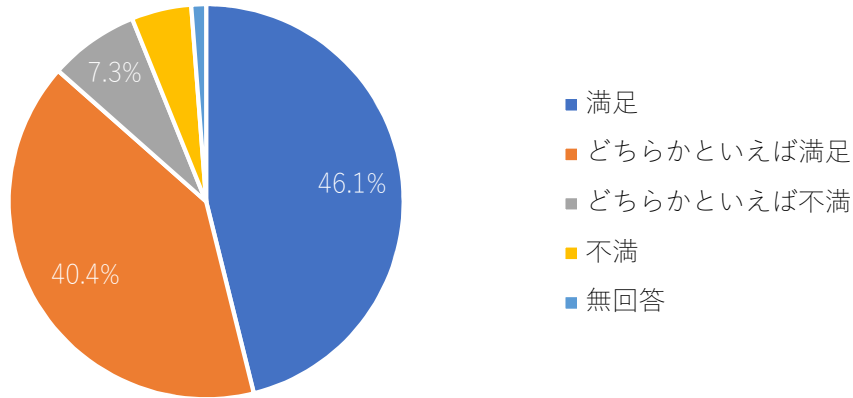
③演習



#### ④カリキュラム全般

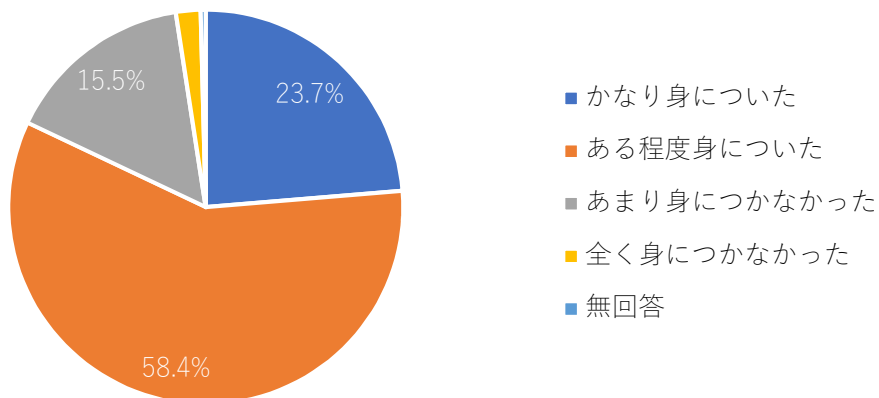


#### ⑤就職活動支援

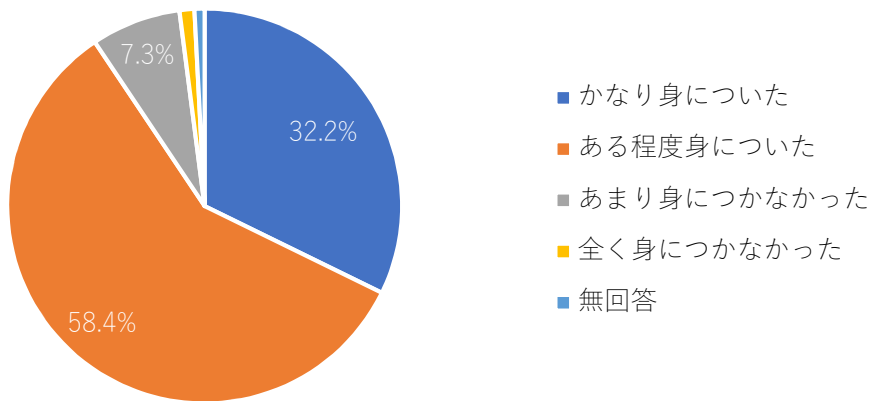


◆ 次にあげる能力について、大学入学時と比べてどの程度身についたと思いますか？

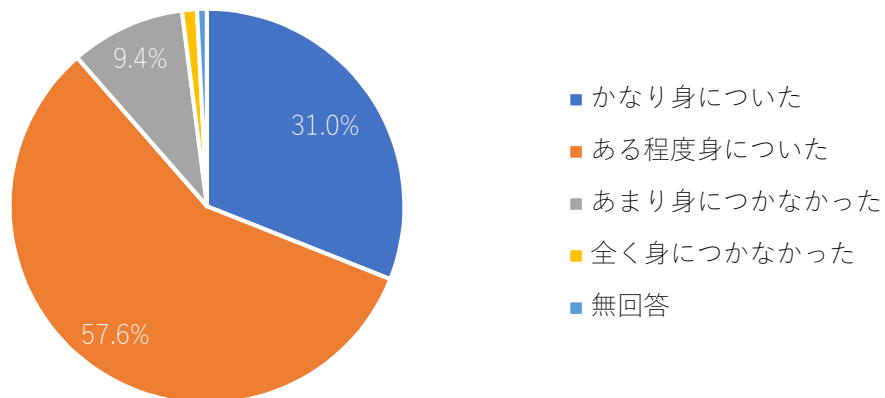
①幅広い教養：多様な文化、歴史および自然に関する幅広い教養と外国語を身に付けて、持続可能な地球社会の形成に主体的に関与できる能力（DP1）



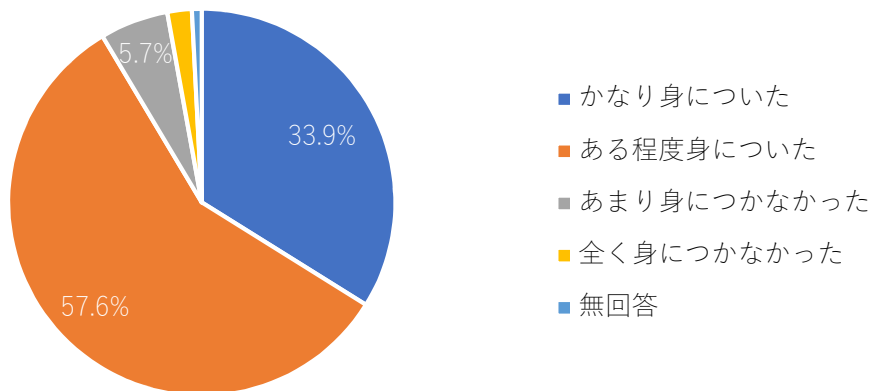
②専門知識：現実の社会問題に触れながら、法と政策に関する専門知識を適切に習得し、社会を多角的に考えることができる能力（DP2）



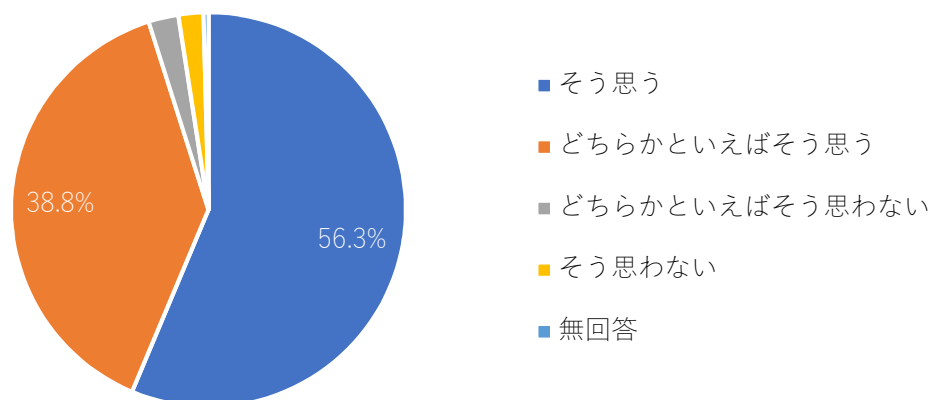
③専門知識の活用力：法と政策に関する専門知識と思考方法を活かし、社会における諸問題を発見し、課題の本質を考察して解決に導くことができる実践的能力（DP3）



④総合的な判断力と行動力：問題解決に必須の論理的思考とコミュニケーション力に裏付けられた総合的な判断力と行動力（DP4）



◆ 入学前と比較して、「東京経済大学はよい大学だ」という思いは強まりましたか？



【分析】

現代法学部は、2019年3月23日に、2018年度現代法学部卒業生に卒業時アンケートを実施した。総回答数は、235件であった（卒業生全体に占める割合は、100.0%である）。

本アンケートの主たる目的は、卒業時における学生の「満足度」を図るとともに、4年間の学習での「達成度」を可視化することである。後者の「達成度」について、現代法学部のディプロマ・ポリシーに準じたかたちで、それぞれアンケート調査を行っている。以下では、総合的な「満足度」について検討した上で、ついで「達成度」について分析を試みる。

総合的な「満足度」については、①学部の専門分野〔法律、政治・行政〕にかかる教育、②総合教育科目にかかる教育、③演習、④カリキュラム全般および⑤就職活動支援の5項目に細分化して、調査を行った。各調査項目につき、「満足」と「どちらかといえば満足」を合計すると、①94.7%、②93.8%、③88.1%、④94.7%および⑤86.5%となり、③演習および⑤就職活動支援を除き、90%を上回る満足度が得られていることが示される。このうち、満足度90%を下回った③演習については、90%まで2ポイントほど下回っているが、概ね満足が得られているとよいと思われる。③演習に関する自由記載欄では、概ね好意的な意見が述べられている一方で、「卒業に必要な wasn't because」、「取る意味がわからなかった」などのネガティブな意見も表明されている。とりわけ、後者の意見については、本学部として演習の意義・有用性等について、学生に対してより魅力的な演習を提示する必要があることが示されよう。また、同じく90%を下回った⑤就職活動支援についても、約5ポイント下回ってはいるが、概ね満足は得られたとよいと思われる。⑤に関する自由記載欄では、概ね好意的な意見が多いが、他方で、インターンシップ先の企業が少なくことやキャリアセンターとのミスマッチがあったことが不満として述べられている。全学的な対応にかかる問題やキャリアセンターとの相性の問題であるため、にわかに改善できる

ものでもないが、今後の参考としたい。

4年間の学習での「達成度」については、現代法学部のディプロマ・ポリシーに準じて、①幅広い教養(DP1)、②専門知識(DP2)、③専門知識の活用(DP3)および④総合的な判断力と行動力(DP4)の4つの項目につき、アンケートを実施した。

①幅広い教養(DP1)については、「かなり身についた」、「ある程度身についた」を合計すると、82.1%であり、卒業時における成長実感としては、概ね達成されているものと思われる。しかし、「かなり身についた」が23.7%であるのに対し、「ある程度身についた」が58.4%と大幅に上回っており、かつ、②③④と比べると、「あまり身につかなかった」が15.5%となっていることから、同項目については改善の余地があることが伺われる。

②専門知識(DP2)については、「かなり身についた」、「ある程度身についた」を合計すると、90.6%であり、高い成長実感があったことが示される。もっとも、①と同様に、「ある程度身についた」割合が、58.4%とかなりの比重を占めていることに鑑みると、改善の余地があると思われる。

③専門知識の活用(DP3)については、「かなり身についた」、「ある程度身についた」を合計すると、88.6%であり、90%をやや下回るものの、こちらも高い成長実感があったことが示される。もっとも、①②と同様に、「ある程度身についた」割合が、57.6%とかなりの比重を占めていることから、改善の余地があると思われる。

④総合的な判断力と行動力(DP4)については、「かなり身についた」、「ある程度身についた」を合計すると、91.5%であり、高い成長実感があったことが示される。もっとも、①～③と同様に、「ある程度身についた」割合が、57.6%とかなりの比重を占めていることから、改善の余地があると思われる。

以上の結果を総合的にみるならば、卒業時アンケート回答者は、総じて高い満足度を得ており、また、4年間の学習での達成度についても、比較的高い成長実感をもっていたことが示されていることから、現代法学部のディプロマ・ポリシーは、所々改善の余地はあるものの、その目的をかなり高い程度で達成したものと評価することができる。

以上